

がくどうigoサポート&キャラバン事業

川越igoまち倶楽部
(2023年2月作成)

川越igoまち倶楽部は、「地域で子どもを育てよう!」との観点から、子どもたちが囲碁を、気軽に楽しく学べる環境を整えるため、担当課と連携し、「がくどうigoサポート&キャラバン事業」(囲碁の出前講座)を実施しました。

1 目的

- 子どもたちに、囲碁の楽しさ・面白さを知ってもらう
- 子どもの人間力を育む(思考力・集中力・判断力・忍耐力・変化への対応力・コミュニケーション力・礼儀など)
- 囲碁講師との世代間交流を通じ、安心感・自己肯定感を醸成する
- コロナ禍での長引くマスク生活におけるコミュニケーションツール(手談)
- コロナ禍における教育現場の負担軽減の一助



水間八段による囲碁勉強会

2 事業対象/担当課

- 川越市内の全小学校に併設する「学童保育」32校
／教育総務部 教育財務課
- 放課後子供教室「のびのびスクール」1校
／教育総務部 地域教育支援課



囲碁教え方ガイド
(入門指導者用・
A4判16ページ)



学童保育支援員の囲碁体験の様子

3 実施期間

2022年6月～2023年2月

4 事業内容

【キャラバン隊派遣前の準備】

2022年(1月～4月 講師用「囲碁教え方ガイド」の検討と市内囲碁活動団体との意見交換を経て)

- | | |
|----|--|
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> ●「囲碁教え方ガイド」(入門指導用)と「子ども用テキスト」作成 ●囲碁教え方勉強会(14日)
参加者:キャラバン隊希望者等
内容:教え方デモンストレーション、ワークショップ |
| 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ●囲碁勉強会(11日)
講師:棋士 水間俊文八段
参加者:学童保育支援員、キャラバン隊員等
内容:囲碁とは(歴史・ルールなど)、初心者囲碁体験 ●キャラバン隊 派遣希望の募集 |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ●オファーのあった学校を訪問し、囲碁の出前講座を実施 |

【キャラバン隊派遣状況】

学童保育

- 2022年8月(夏休み中)
⇒11校を訪問、参加児童数 計219名
- 2022年11月(2学期)～2023年1月(冬休み中)
⇒13校を訪問、参加児童数 計237名

放課後子供教室「のびのびスクール」

- 2022年1学期
⇒2回訪問、参加児童数 計52名
- 2022年2学期
⇒3回訪問、参加児童数 計80名
- 2023年3学期
⇒1回訪問、参加児童数 計23名

キャラバン隊派遣実績

- ★学校数でカウントすると ➡ 16校
- ★訪問回数でカウントすると ➡ 30回
- ★参加児童数でカウントすると ➡ 延べ611名

キャラバン隊とは？

- キャラバン隊編成：チーフ講師＋サポートスタッフ（4～5名）
- 持っていくもの：解説用大盤（紙）、マグネット碁石、対局用7路／9路盤セット、飛沫防止パーテーション、消毒セット、囲碁教室チラシ など

囲碁講座の内容

- ① 囲碁の基本ルールを大盤で解説（生徒の反応を見ながら、やさしく）
- ② 子ども同士でお試し囲碁体験（きめ細やかにサポート）
- ③ 対局中に生じた疑問はみんなで共有（大盤で解説）
- ④ 児童も先生も一緒に、チーム対抗「リレー碁」

寄せられた声

※学童保育支援員、放課後子供教室スタッフ・キャラバン隊のアンケートをもとに作成

参加児童 より



囲碁を教えてもらって
良かったこと

- ・素直に、楽しかった！面白かった！
- ・難しいと思っていたけど、意外と簡単だった
- ・囲碁に興味を持った
- ・ゲーム感覚で理解できた ・頭がよくなる気がした
- ・友だちとの対局やチーム戦と、いろいろ楽しめた
- ・先生にやさしく教えてもらって、嬉しかった
- ・オセロと似ているようで違った遊びがあることを知った
- ・囲碁のルールを知り、教室にある碁盤で遊べるようになった



学童保育（大盤を使ってルール説明）



学童保育（はじめての囲碁体験）



学童保育（チーム対抗のリレー碁）



放課後子供教室（のびのびスクールは体育館で）



対局用碁盤セットとテキスト

感想・希望など
です

- ・また、来てほしい
- ・ルールが少し難しかった
- ・低学年には時間が長かった
- ・対戦相手を交代し、強い子とも打ちたかった



川越igoマスコットキャラクター
「かわ碁え丸」

学童保育支援員／放課後子供教室スタッフ より

キャラバン隊を希望した理由

- ・長期休暇中のお楽しみイベントとして ・放課後の時間を豊かにし、遊びの範囲を広げたかった
- ・支援員の勉強会で囲碁の楽しさを知り、児童にも体験させたいと思った
- ・コロナ禍で色々なことが制限される中、楽しむ体験をさせたかった
- ・教室に碁盤がありながら、支援員では教えられないので良い機会だと思った
- ・1日保育の長い時間、児童の生活に変化を持たらしたかった
- ・囲碁は、礼儀作法・論理的思考・感情コントロールに役立つと聞いて、児童が落ち着いた気持ちを持てるようになるのではないかと考えた
- ・考えることは心の対話になると聞いて、支援員としても覚えたかった
- ・児童が、支援員以外の大人や地域の人たちと、かかわりを持ってほしいと思った
- ・キャラバン隊派遣を実施した他の学童の先生から「良かったよ！」と聞いたから

囲碁講座を実施して良かったこと

<教え方>

- ・説明がわかりやすく、児童の気持ちを盛り上げる教え方だった
- ・チーム対抗のリレー碁など、楽しめる工夫がされていた

<児童の様子>

- ・普段見られない集中する姿、楽しそうに碁をやっている様子に驚いた
- ・室内遊びの時間に、碁で遊ぶようになった
- ・一つでも多く遊べるものが増えると、「つまんな〜い」「なにしていっか、わかんない〜い」という子が減るのでありがたい（特に長期休み中）
- ・碁を教えられる機会は日常的にないため、児童にとっては新鮮で、雰囲気も楽しんでいただけた
- ・石取りのルールがわかりやすく、勝敗もはっきりわかり、碁石の感触も気に入っている様子だった
- ・どう打つか考えている様子や、対局する子ども同士の関係も、見てよかった

<地域交流>

- ・地域の人たちとの交流は、児童や支援員にとって、貴重な学びの場となった
- ・普段関わりのない外部講師さんのため、児童は程よい緊張感を味わっていたようだ
- ・コロナ禍で外部の人との接触ができなかったため、思い出に残るイベントになった



学童保育（きめ細やかにサポート）

感想

<継続希望>

- ・夏休みの恒例行事として定着してほしい ・1回では定着しないので、定期的に来てほしい
- ・支援員向けの研修も継続してほしい ・まだ体験していない児童にも体験させたい

<感想・要望など>

- ・実施時期に配慮してもらい、時間配分もお見事！ ・7路盤では物足りない児童も出てきた
- ・家族で碁を楽しむようになり、夏休みのいい思い出になった（保護者より）
- ・スタッフの先生に、児童の相手になってもらいたい ・終局がわからない
- ・低学年は早く打ちたい様子だったので、説明時間を短くした方がいいと思った
- ・13路／19路盤セットが、各学童に5セットぐらいあるといい

囲碁の出前講座で心がけたこと

～心身の発達段階である子どもに寄り添い、子ども目線で～

- ★興味を持ち、楽しんでもらうことが第一
- ★説明はわかりやすく、簡潔に
- ★「教える」のではなく、「気づき」を促すように
- ★碁を通して礼儀・マナーを実践
- ★世代を超えた講師との触れ合いで、安心感・自己肯定感を育む

良かったこと

<意義>

- ・多少なりとも、囲碁の普及に役だったのではないかと
- ・子どもたちが将来「囲碁をやったことがあるよ」といえる程度の貴重な経験になったと思う
- ・子どもたちと指導員の方々、両方に喜ばれた ・多くの子どもたちと触れ合えた ・囲碁普及の可能性が感じられた

<児童の様子>

- ・明るく元気よく、集中して楽しそうだった ・先生の説明や質問に耳を傾け、礼儀正しく、素直
- ・質問してわかった子が「ハイ！ハイ！」と手を挙げ、大盤で答えを打ってみてと促すと、喜んで答えてくれた
- ・やる気になるように促すと、とても興味を示す子がいて、その子の目が印象深い
- ・子どもたちに感想を聞くと「楽しかった！」と答えがかえってきて嬉しかった ・リレー碁は大盛り上がりだった

<感想>

- ・子どもたちが囲碁を楽しむ様子を間近でみることができ、自分も楽しめた
- ・支援員の方々の関心がとても高く、キャラバン隊に感謝していただいた
- ・大人になってから「囲碁をやってみよう。子どもの時やって楽しかった」と思い出し、再チャレンジする人が出てくれれば嬉しい ・キャラバン隊に教えてもらったことは、必ず将来の糧になると思う
- ・自分にとっての達成感もあり、良い事業だと思うので続けていきたい

さらなる工夫

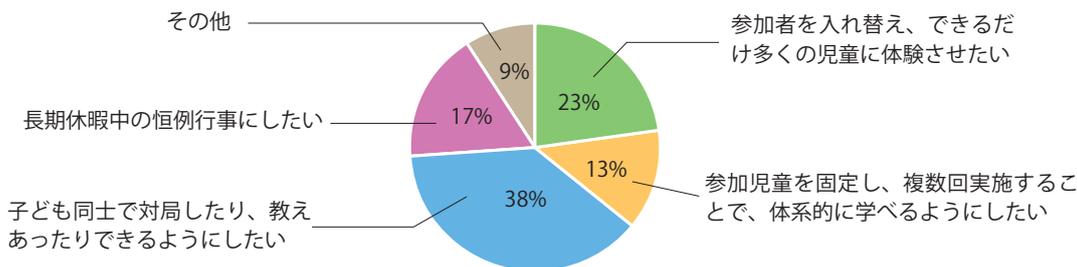
<教え方>

- ・慣れてきたら、指導員同士の模範碁&解説も取り入れたい ・子どもたちに好評のリレー碁をできる時間がほしい
- ・石取りゲームで囲碁の楽しさに触れた後、囲碁本来の「陣地の競い合い」をどう教えるか
- ・訪問先によって参加する児童数・学年が異なるので、いくつか教え方のパターンを講師陣で共有したい
- ・説明の時間を短く、対局時間を長くする方が、囲碁に親しむ入り口になる
- ・子ども用テキストが、A4二つ折りで配布されている学童が多く、小さく見づらいのではないかと考えた

<体制>

- ・キャラバン隊員のさらなる充実
- ・学校訪問時に持参する道具一式について、車の手配や道具の配備等、負担軽減策を検討したい

囲碁講座 今後の方向性 ※学童保育支援員のアンケートをもとに作成



まとめ

学童保育支援員・放課後子供教室スタッフとその在籍児童、およびキャラバン隊員から、貴重なご意見をいただきました。それらの声に耳を傾けると、戸惑いながらもスタートした「がくどうigoサポート&キャラバン事業」が受け入れられ、その思いをしっかりと受け止めていただいていることがわかりました。

よって、今年度の経験と実績をさらに進化・発展させて、関係各位のご理解・ご協力もいただきながら、本事業が掲げる目的に向かって、引き続き取り組んでまいります。一層のご理解・ご協力を、よろしく願いいたします。

【人と人・人とまちをつなぐ囲碁で、文化・知性・子どもたちの未来を拓く】

川越igoまち倶楽部

〒350-1138 埼玉県川越市中台元町 2-7-12

TEL&FAX 049-245-3439

✉ igomachi@ki-la.net

ホームページ <https://igomachi.sakuraweb.com/>